

幾何学I演習問題

担当: 中島 啓 TA: 佐々木建祀郎, 佐藤敬志, 中西克典

2012年6月6日(水)

演習問題の略解は

http://www.kurims.kyoto-u.ac.jp/~nakajima/Lecture/12_Kika1.html
を参照のこと.

問題 43. $a = (a_1, \dots, a_n) \in \mathbb{R}^n$ を一つの固定されたベクトルとし、 \mathbb{R}^n 上のベクトル場

$$\sum_i a_i \frac{\partial}{\partial x_i}$$

を考える。 $t = 0$ で $x \in \mathbb{R}^n$ を出発する積分曲線が $x + ta$ で与えられることを示せ。

問題 44. $A = (a_{ij})$ を $n \times n$ 実正方行列とし、 \mathbb{R}^n 上のベクトル場 \tilde{A} を

$$\tilde{A}_x = \sum_{i,j=1}^n a_{ij} x_j \frac{\partial}{\partial x_i}$$

によって定義する。ただし、 $x = (x_1, \dots, x_n) \in \mathbb{R}^n$ である。

このとき、 $t = 0$ で $x \in \mathbb{R}^n$ を出発する \tilde{A} の積分曲線が

$$\exp(tA)x$$

で与えられることを証明せよ。ただし、 $\exp(\bullet)$ は行列の指数写像である

問題 45. 先週の問題 37 に出てきたベクトル場 \tilde{X}, \tilde{Y} の積分曲線を求め、それらが完備であることを直接に確かめよ。

問題 46. $\varphi: M \rightarrow N$ が微分同相写像のとき、 M 上のベクトル場 X に対して N 上のベクトル場 φ_*X を

$$(\varphi_*X)_{\varphi(p)} = d\varphi_p(X_p)$$

によって定義する。([坪井 I, p.173])

X, Y を M 上の C^∞ 級ベクトル場とし、 φ_t, ψ_t を対応する 1 パラメータ変換群とする。(簡単のため X, Y は完備とする.)

(1) $F: M \rightarrow M$ を C^∞ 級微分同相とすると、 $F \circ \varphi_t \circ F^{-1}$ は、ベクトル場 $F_*(X)$ に対応した 1 パラメータ変換群であることを証明せよ。

(2) $[X, Y] = 0$ である必要十分条件は、 $(\varphi_t)_*(Y) = Y$ となることであり、さらに $\varphi_t \circ \psi_s = \psi_s \circ \varphi_t$ がすべての s, t について成り立つことであることを証明せよ。

問題 47. $n \times n$ 実正方行列の全体の集合を $\text{Mat}_{n,n}(\mathbf{R})$ とし、その中の可逆な $n \times n$ ものの全体の集合を $G = \text{GL}_n(\mathbf{R})$ とする。 G は群になる。 $\text{Mat}_{n,n}(\mathbf{R}) \cong \mathbf{R}^{n^2}$ とし、 G は \mathbf{R}^{n^2} の開集合と思って C^∞ 級多様体の構造を入れる。

- (1) $G \times G \rightarrow G; (g, h) \mapsto gh, G \rightarrow G; g \mapsto g^{-1}$ が C^∞ 級写像であることをチェックせよ。
- (2) A を $n \times n$ 実正方行列 (可逆とは限らない) としたときに、 $g \in G$ に対して

$$\tilde{A}_g = gA \in \text{Mat}_{n,n}(\mathbf{R}) \cong \mathbf{R}^{n^2} \cong T_g G$$

によって、 g における接ベクトル \tilde{A}_g を定める。 \tilde{A} は、 G 上のベクトル場になることをチェックせよ。

- (3) \tilde{A} の積分曲線を、行列の指数写像を用いて表わせ。
- (4) A, B を二つの $n \times n$ 実正方行列としたときに、 $[\tilde{A}, \tilde{B}]$ が、行列 $AB - BA$ から上のやり方で定めたベクトル場 $\widetilde{AB - BA}$ に等しいことを証明せよ。